

加西病院の神経内科 の休診について

Q なぜ2人の常勤医師が同時に退職されるのか。2人の常勤医師の慰留に努めなかったのか。大学側へは、常勤医師確保のためにどのような働きかけをされたのか、これまでの経過の説明を求めます。

A 医師の採用については、特に市立病院の医師は公務員なので、個人的なつながりで採用するのではなく、責任を持ってくれる大学医局からの派遣を望んでいる。退職後の復職を保障する制度はなく、退職は本人の意思に基づくもので、慰留はしたが、本人の意思を尊重した。神経内科医は辞めるにあたって、個人的に1人の後任候補を推薦されたが、正式な大学医局からの推薦ではなく、人事の総合性を考慮した上で採用していない。医局にも相談はしたが、神経内科の補充については、この時期になるとは考えておらず、やりくりしたいということであった。最初は派遣可能との話だったが、予定されていた神経内科医の海外留学と臨床研修制度に伴う急激な勤務医不足により、何度も交渉や陳情を重ねたが神経内科を継続することはできないという結論に至った。

神経内科の一時休診が決まるにあたり、患者様へのご迷惑を軽減するための病院の対応策として、入院を必要とする方は内科に入院していただく。神戸大学の神経内科部門のトップの助教授に週1度加西病院の神経内科の回診と診断治療をお願いし、受諾を得ている。また、もう1人、神経内科専門医も回診する。主治医は内科医が担当し、外来は、内科の初診、再来で診察する。また、神経内科専門医の外来対診も予約診として予定している。

今後、診療所の手に余る重症は引き受ける方針。このたびのことにしても、加西医師会へも協力要請をしている。神経内科疾患に限らず、急性の変化や重症疾患は加西病院で診る。軽症疾患や安定した患者様は診療所のかかり

学校の安全対策は万全か

Q 16年度予算に、学校内外の安全のための様々な政策に取り組みされているが、万全と言えるか。

A 特に学校の安全対策については、万全とは言いきれないが、14年度から、門扉、フェンスの設置な



わっしょいスクールのボランティアの方々との交流

つけ医の先生にお願いするという病診連携に力を入れている。神経内科はやむなく休診する。後任の赴任が遅れており休診に至ったことは極めて痛恨であり、病院をご利用いただく市民の皆様にも申し訳なく、できるだけ早く再開するように努力する。

どをしてきた。また、防犯カメラの設置等は他市ではよく言われるが、限られた予算の中で、最大の効果を得るよう努力している。特に、本年度より実施した「ワッショイスクール」は、7月から1月にかけて、全小学校で立ち上げ、地域の方々にご協力をいただき、学校安全に大きな成果をあげている。県下でも、加西市の「ワッショイスクール」は高い評価を得ている。防犯ベルについては、来年度より、新1年生の希望者に補助を行う予定。事業については継続していきたい。

アステアかさいユニオン

Q 北条駅周辺第1種市街地再開発事業として、約75億円をかけて、平成15年3月に華々しくオープンをして約1年。アステアかさいに出店されていた店舗が6店も退去されたと聞く。その後、現在のテナントの状況はどうなっているのか、また現状を加西市としてはどう受けとめ対応していくのか。

A アステアかさいはオープン時には商業ゾーンに4区画が残っていて、その後8区画が撤退。また2区画が入店、現在10区画が空店舗となっているという状況。現在催事等で有効活用に使っている。この空き区画については、市長の陣頭指揮の上、市と管理会社が一丸となってテナントリーシングに努めており、現在交渉中のテナントもある。

葬儀場ユニオン

Q 家族構成や住宅環境の変化に対応して市営の葬儀会館を設置できないか。

A 公的葬儀会館は、近隣では姫路市だけが名古屋霊園で葬儀会館として場所を提供し、経営を民間に委託している。高砂市と西脇市の衛生公社は葬儀会館の経営ではなく、祭壇等葬儀資材の貸し出しと人材の派遣を実施している。その他の自治体では、すべて民間が葬儀会館を建設し、経営しているのが現状。加西市の場合は、葬儀

2025年3月15日